

2008年11月15日
第179号

題字 住谷悦治



燎原社
(京都の民主運動史を語る会)

代表 岩井忠熊

事務局
京都市左京区高野東開町1-23
第三住宅33-302 井手幸喜
〒606-8107
tel & fax 075 (722) 3823

寿岳文章、住谷悦治、 田畠忍氏もビラまき

1970年の知事選挙



天下分け目の決戦となつた70年京都府知事選。反動陣営は自民・民社に公明党まで抱き込み「蟻川虎六選阻止」「共産府政打倒」を叫んだ。蟻川陣営は、民主府政20年間の実績と積極的な公約をビラにして大宣伝、毎日の全戸配布とともに街頭でも自公民連合を圧した。また折からの創価学会による言論出版妨害事件に寿岳氏を先頭にした抗議集会もひらかれた。激戦だつただけに府民の関心は高く、72.96%と過去最高の投票率となり、蟻川虎三63万票、柴田護49万票と圧勝した。あれから38年、いまだお忘れられない選挙だった。

学者宗教者文化人の会のビラまき。寿岳文章氏（英学者）、田畠忍氏（同志社大教授、右端）、住谷悦治（同志社総長、右から2人目）。四条河原町で。

執筆者紹介

川合葉子（かわい・ようこ）

科学史研究者。原爆展掘り起こしの会。京都市北区在住。

星田淳（ほしだ・あつし）
故人。元京都府教育委員、民主主義科学者協会京都支部長。

星田淳（ほしだ・あつし）
北海道エスペラント連盟委員長。苫小牧市在住。

井手幸喜（いで・こうき）
本会世話人。京都橘大学。

田北亮介（たきた・りょうすけ）
龍谷大学名誉教授。京都市北区在住。

齊藤治（さいとう・おさむ）
編集者。京都市右京区在住。

湯川さんの伝統引き継ぐ 益川敏英さんにノーベル賞	連載	この一枚
反体制エスペラント運動とかくされた歴史の暗部	連載	（連載）ソビエト友の会の歴史（上）
「湯浅貞夫資料を記録する会」からの中間報告（2）	連載	「悼」大江洗さん
連載 忘れ得ぬ人	連載	神谷知治くん
紹介・掛谷文庫のこと／こぼれ話 出口王仁三郎の書をめぐって	BOOK「爆沈・浮島丸」	9 情報スクラップ 例会案内／編集後記
3	9	12
星田淳	川合葉子	星田淳
井手幸喜	星内年彦	井手幸喜
田北亮介	星田淳	田北亮介
齊藤治	井手幸喜	齊藤治
11	10	8
10	9	7
9	8	4
8	7	2

天下分け目の決戦制す

天下分け目の決戦となつた70年京都府知事選。反動陣営は自民・民社に公明党まで抱き込み「蟻川虎六選阻止」「共産府政打倒」を叫んだ。蟻川陣営は、民主府政20年間の実績と積極的な公約をビラにして大宣伝、毎日の全戸配布とともに街頭でも自公民連合を圧した。また折からの創価学会による言論出版妨害事件に寿岳氏を先頭にした抗議集会もひらかれた。激戦だつただけに府民の関心は高く、72.96%と過去最高の投票率となり、蟻川虎三63万票、柴田護49万票と圧勝した。あれから38年、いまだお忘れられない選挙だった。

湯川さんの伝統引き継ぐ 益川敏英さんにノーベル物理学賞

川合 葉子
(科学史研究者)

今年のノーベル物理学賞は、南部陽一郎さん、小林誠さん、益川敏英さんの三人に授与されました。その第一報は十月七日の夕刻に入ってきたので、思わずテレビに見入ってしまいまし

た。それから数日の間、今まで原子の中をのぞいたことのなかつた人たちも、原子核が陽子と中性子からできてい、それぞれがクォークというもつと小さな基本粒子からできているといふ解説を、毎日のニュースで聞くことはなりました。小林・益川理論といふのは、このクォークが六種類以上あると予測した理論で、一九七二年に発表され、素粒子物理学の「標準理論」と認められてきたのです。

この理論を確かめる実験も計画され、二〇〇二年にアメリカのスタンフォード大学と、日本の高エネルギー加速器研究機構とで理論の正しさの検証に成功しました。それ以来、二人はいつもノーベル賞をもらつてもおかしくないといふ周りの人は考えていました。

個性的で民主的な研究体制の下で

生まれました。その基礎には、名古屋時代の唯物弁証法を指針とした「坂田モデル」と、それをめぐって行われた自由で活発な議論が生きていたのだと思われます。ノーベル賞受賞が決まって、名古屋大学の方々の喜びの声が新聞から伝わってきました。

ところが、益川さんは、第一報が入って、受賞の感想を聞かれたとき、「大してうれしくない。科学者としては、実験でお前の理論は正しかったよ」といつてもらつたときの方がうれしかった」と答えたのです。これはとても

益川さんらしい答えかただと思いまし。益川さん流のまのじやくと思つた人もいたでしょうが、私は素粒子論に協力して努力されました。民主的な実験の人たちへの心配りではなかつたかと思っています。

NHKのインタビューのために東京に行って、受賞後初めて小林さんにあわれたときにも、「実験の人たちたちには本当に感謝しています」と挨拶をしておられました。その後小声で

「全くプライバシーなんかないんだから」とつぶやいたのが聞こえました。突然「時の人」になつてしまつた実感のようでした。

小林・益川理論はすばらしい仕事でした。けれども二人の周りではいろいろと個性的ないい研究があつて、その

もう「紙と鉛筆」の科学ではない

素粒子物理学の理論の検証のために大きな予算を伴う実験設備が必要で、設計の段階から理論と実験の真剣な議論があつて、大勢の協力で実験が行われています。小林・益川理論の検証が日本の高エネルギー加速器研究機構で成功し、更に実験が進められるということは、本当にすばらしいことです。小林誠さんはこの機構の名誉教授になつておられます。もう素粒子物理学は、朝日新聞の社説(2008年10月8日)の見出しに書かれたような「紙と鉛筆」の科学ではありません。

それが、湯川・朝永の時代との大きな違いとなつてゐると思います。しかしこの変化は、湯川・朝永の世代の方々が努力してその基礎をつくつてこられ



喜び3倍たたえ合い



賞の重みを実感

中で二人の理論が生まれたのだと思ひます。湯川秀樹先生のときもそうでした。その周囲には、朝永振一郎、坂田昌一、武谷三男、などという方々がおられ、それぞれに個性的な研究をしておられました。研究は個性的でしたが、若い人たちを育て、敗戦後の日本の物理学を世界的レベルに引き上げるために協力して努力されました。民主的な研究体制をつくることにも努力されました。予算の少ない日本で、理論だけではなく実験も発展するように将来計画を検討して実験施設をつくり、次第に高エネルギーの実験ができるようになります。

たという経過を忘ることはできませんでした。基礎研究は息の長い研究だと自由な発想だとか大事にし、議論を活発にして、しかも協力し合える、そして予算を潤沢に保障する体制をつくるないと決して盛んにはならないのです。そして豊かな基礎研究の成果がないところに技術立国などないのでないかと私は思っています。

「九条の会」アピールの呼びかけ人

湯川・朝永の世代の方が協力して作り上げられたものがあつたあります。それは核抑止論を粉碎し、核廃絶の運動を粘り強く続けるということでした。湯川先生は、とりわけ憲法九条の意義を深く捉えておられました。い

ま、大江健三郎さんたち九人が始めた「九条の会」に運動して、「九条の会」のアピールを広げる科学者研究者の会がその人数を広げています。益川さんはこの会の呼びかけ人の一人です。

毎日新聞の署名入り（奥野敦史さん）の記事にはそのことが紹介されていて、「気骨の平和主義」という見出しがつけられていました。記事の最後に、益川さんの「専門外の社会的問題も考えなければいい科学者になれない。僕たちはそう学んできた」という言葉が紹介されていました。日本の物理学会の中にしつかりとした伝統が引き継がれつつあることを強く感じた紹介でした。

「京都自由大学」と初代学長の益川さん

益川敏英さんが初代学長をつとめた「京都自由大学」は、2005年3月にスタートしました。「競争と効率の市場論理の中で学費はますます高騰し、全人的教育がやせ細り、大學が庶民からますます疎遠な存在になりつつあるなかで自由大学は、国際人権規約を完全実施する市民に開かれた大学です」——今年の入学案内に益川さんは書いています。

自由大学は毎週金、土曜日の夜、ボランティアの講師陣が話し、自由な討論をします。講師には、様々な大学の教員、芸術家、文化人、市民

などを招き、開かれた文化空間を創造しています。講師と受講者の参加資格には特別な条件はなく、益川さんは「あえて言え『威張らない人、平和的な人、地道である人』でしょうか」と述べています。

そして「自由大学が、世界と京都の平和・自由・民主主義の前進を応援できればとても嬉しく思います」と結んでいます。

受講は随時でき、定員は30人。下

京区西洞院五条上るのエスペラント会館で。会場費一回500円。（09

0・3612・7358藤田さん）（ゆ）

BOOK

爆沈・浮島丸歴史の風化とたたかう

品田 茂 著

1945年8月24日、戦時中、

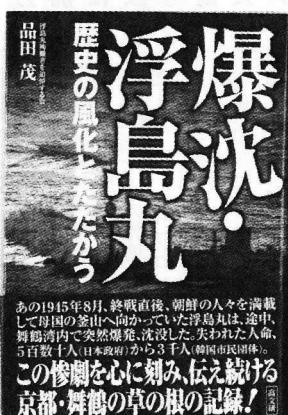
日本で過酷な労働に従事していた朝鮮人を満載して母国の釜山に向かっていた浮島丸が、途中、舞鶴湾内で突然爆発、沈没した。

5百数十名（日本政府）から3千人（韓国民団体）が死んだ惨劇。事件から63年、「浮島丸殉難者を追悼する会」事務局員の著者が歴史を風化させず、語り・追悼していくことと本にし

た活動を記録している。

須永、野田さんの志は、いま50歳の著者（舞鶴市職員）らによつ

て確実に引き継がれていることが分かる。願わくは舞鶴にある「引揚記念館」に浮島丸関係の史資料を集め「浮島丸事件コーナー」としてぜひ展示してほしいことである。加害の記録を欠落していく展示の値打ちが下がるのでは、と思う。



て確実に引き継がれていることが分かる。願わくは舞鶴にある「引揚記念館」に浮島丸関係の史資料を集め「浮島丸事件コーナー」としてぜひ展示してほしいことである。加害の記録を欠落していく展示の値打ちが下がるのでは、と思う。

（高文研・定価1680円）（ゆ）

「ソビエト友の会」の歴史

「ソビエト友の会」は日ソ協会京都府連が創立20周年を記念して機関紙「日本とソビエト」（京都版）1978年1月1日号で特集した中に掲載されたものです。執筆された山内年彦氏は、当時、日ソ協会京都府連顧問。日本ユーラシア協会京都府連の許可を得て2回に分けて掲載します。

一、東京

プロレタリア科学研究所開設

一九二九（昭和四）年十月東京で秋田雨雀（作家）を中心としてソ連科学の研究と紹介をその目標の一つとして掲げたプロレタリア文化連盟の一翼としてプロレタリア科学研究所が結成され秋田が委員長に推された。この年、京都の安田徳太郎が上京して秋田と会合し京都にプロ科の支部をつくることで話しがまとまった。京都では安田の私宅を事務所としてプロ科研究所が開設された。この運動には平井羊三（京大経済学生）、戸坂潤（哲学者）、太田武夫（産婦人科医）、加藤正（独文科）らが参加した。一九三〇（昭和五）年九月末、秋田雨雀と山下徳治（新興教育研究所責任者）が京都に招かれてプロ科関西支部講演会が開催された。

安田徳太郎氏上京

一九二九（昭和四）年三月五日労農党代議士山本宣治が右翼アロリストに

暗殺された。山宣の従弟安田徳太郎は

当時、京大辻内科大学院で研究をしていたが昭和五年二月、宿望の医学博士になつたし、行きづまつた京都の生活にみきりをつけ新天地開拓のため東上に決意を固めた。彼は昭和五年十月家は日本橋浜町の優生病院に勤務する家族もろとも東京に転住した。安田医博論作成を手伝つてゐるうちに柴田の支援と指導により「友の会」結成に協力した。稻葉は安田の知遇を得、また加藤正とも知合いとなつた。柴田和夫は大阪府知事、内閣書記官長を務めた故柴田善三郎の長男であつたが惜しくも昭和二十年八月広島で原爆死した。協力者の他の一人は安田著「思い出す人びと」に記載してある共産黨のテクニカルメンバード想像される青年である。この青年の紹介でいろいろの人士が友の会に加わつた。安田は組織づくりのため加藤正を東京によりよせた。安田は加藤の協力により当時特高警察よりあまりマークされていなかつた知名の文化人の協力を得ることができた。長谷川是如闇（評論家）、伊奈信男（美学者）、長谷川時雨（作家）、大塚金之助（経済学者）、山之内一郎（憲法学者）、河崎なつ（文化美学学者）らである。

安田の構想は時流に適合していたの

ソビエト友の会創立

大体の準備ができたので「ソビエト友の会」の創立準備会が一九三一（昭和六）年六月一日新宿の白十字で開か



山内年彦

山内年彦（1898—1979）	山口県出身。1922（大正11）年、山口親善協会京都支部創立に参加し顧問。58年、日ソ協会府連設立に参加、副理事長など歴任。79年1月死去。（京都公選制の京都教育委員に就任。49年、学読書会に参加、29年、動物学の研究のため渡独、49年、民主主義科学者協会京都支部を設立し、支部長を3～4年つとめる。以後同会生物部会会員。50年、解放のいしづえ）より）
-----------------	--

れ、秋田、安田、高山洋吉、茂森唯士、小川信一、中根、柏木、山之内一郎、加藤正、稻葉秀三、大河内信威、杉山美都枝の十二人が会合し秋田を座長に推して議事が開かれようとした時に、四谷警察署員が会場に乱入して、無届集会を理由に集会の解散を命令し、その場で秋田、加藤、稻葉、杉山女史を検挙した。四人は抗議により翌日釈放された。そこで安田と秋田は後日、警視庁を訪ねて「友の会」は政治団体ではなく日ソ間の文化交流団体であることを力説して了解を求め今後、集会の際は前もつて警察に届出ることを約束して友の会の存続を計った。

昭和六年六月二十七日、日本最初の「ソビエト友の会」の発会式が本郷の明治製菓で挙行された。学者、芸術家、実業家ら八十名が出席した。友の会の会長に秋田雨雀が推された。友の会事務局は加藤正が中心となり稻葉秀三、鈴木幸康、伊奈信男、林達夫、湯浅芳子、杉山美都枝らが活動した。友の会の最初の重要な仕事は出版活動であつた。機関紙としてグラフ「ソビエトの友」が刊行されることになり、その出版基金として安田はイーリン著「五年計画の話」の邦訳を鉄塔書院（小林勇）より出版し印税の全額を提供了。この機関紙は十六頁のグラフを主とした月刊紙で発行署名人は稻葉秀三、編集主任は伊奈信男であった。資料はボックス（ソ連対外文化連絡部）、タス通信社が主として提供した。また

視察を訪ねて「友の会」は政治団体ではなく日ソ間の文化交流団体であることを力説して了解を求め今後、集会の際は前もつて警察に届出することを約束して友の会の存続を計った。



日本とソビエト（京都版）
1978年1月1日

の会の会費は普通会員月額五十銭、特別会員月額一円であつたが、これでは会の維持ができなかつた。「ソビエトの友」の出版で友の会の財政的基礎が強化された。機関紙は東京について設立された京都、大阪の友の会支部にも配布された。

次に重要な事業としてロシア語講習会が神田駿河台の文化学院（川崎なつ）で開設され湯浅芳子が講師を務めた。米川正夫、除村吉太郎、茂森唯士らの有名人も講師の名を列ねている。

友の会事務局の矛盾

ところで不幸にも友の会の事務局内で加藤正を中心とする共産系と非共産系の活動家の間で会の組織について意見の対立を生じた。一九二七（昭和二）

年ソ連十月革命十周年にモスクワに集まつた各国代表によりFSU（ソ同盟の友）がつくられて資本主義国のドイツ、フランス、イギリス、米国、チエコスロバキアに「ソビエト友の会」支部が設置された。しかし日本の友の会はFSUの支部ではなく友好団体として連携していた。加藤正のフラクは日本の友の会をFSU支部として運営することを主張した。つまり労働者、農民のニニシアチブによるソビエトを守る政治的色彩の強い「ソビエト友の会」をつくる意図であつた。そこで一日の友の会幹事会でソビエト友の会を「日ソ文化協会」と改称することが決定された。秋田雨雀会長は辞任し代わって長谷川是如閑が文化協会の会長に推された。当時のソ連側の意向はイデオロギーにこだわる親ソ運動では、広く支持層に人材を吸収することができないからイデオロギー抜きの文化運動を開拓することであつた。安田徳太郎を中心とするソビエト友の会は十一カ月で解消されグラフ「ソビエトの友」の最終号は昭和七年六月「新ロシア」と改称され「ソビエト友の会改め日ソ文化協会発行」として刊行された。しかし安田系列の友の会は昭和七年年初頭より京都および大阪でソビエト友の会支部として独自的に活動を続けた。

さて加藤正のフラクはFSU支部と後出）

FSU支部の活動

さて加藤正のフラクはFSU支部と

京都の親ソ運動の曙光

二、京都

京都の親ソ運動の先駆者太田武夫（のち典礼と改名）は三高・九大産婦人科出身で三高では安田、山内の一年後輩であつた。太田は九大卒業後、京大で研究を続行し昭和の初期から安田とともに産制運動に活躍した。太田は昭和六年六月、東京で挙行された「ソビエト友の会」の発会式に招待され京都をつくることで合意した。京都では太田を中心として友の会の結成準備が進められた。東京で活躍した稻葉秀三が父の死亡により京都に帰つたので太田に協力した。友の会の仮事務所は左区田中玄京町洛北診療所内におかれ、ここで友の会設立趣意書を太田典礼が

しての友の会の再組織に努め、一九三二（昭和七）年八月二十二日建築会館で「ソビエト友の会」発起人会を開き、九月二十三日仏教青年会館で発会式を行ない、六十名の参加者があつた。FSU支部としての新しい機関紙「ソビエトの友」が十二月十日にスターインの大肖像を表紙に掲げ刊行されたが直ちに発禁となり加藤正およびフランク・メンバーは検挙された。京都および大阪のソビエト友の会支部は東京の日ソ文化協会発足以前の「ソビエト友の会」は無関係に独自的に運営された。

作成した。加納竜一、杉山茂、安達征一、松田道雄の諸氏の手許に保存されていた記録により以下、京都の友の会の活動を詳細に涉り報告する。

(一) 昭和六年十二月、三条河原町東洋亭(現在アサヒビヤ・レストラン)二階で友の会京都支部発足準備会開催。太田典礼、松岡義和夫人、能勢克男夫人、香野雄吉(加納竜一)らが出席し協議した。

(二) 昭和七(一九三三)年一月、ソビエト友の会京都支部発会座談会を東洋亭ホールで開催。滝川幸辰、能勢克男、住谷悦治、太田典礼、高橋松蔵、篠田統、朝山新一、加納竜一、松岡義和夫人、大島菊女史ら進歩的文化人を中心として約六十名の市民が参加した。東京からは湯浅芳子が派遣された。京都からも湯浅芳子が派遣された。役員選定、幹事として滝川幸辰、上野伊三郎、衣笠貞之助、能勢克男、篠田統、太田義一、加納竜一、太田典礼が選出され、太田典礼が責任者となつた。事務局員として杉山茂、国行義道、大島菊女史、安達征一が依頼された。なお大会後に幹事として末川博、本野精吾が追加され、篠田統は幹事を辞退した。会員は月額五十銭の会費を払い代償として本部発行のグラフ「ソビエトの友」をうけとつた。なお大会の後日、宣伝のため三条のYMC会館で衣笠貞之助、

加納竜一の協力により「映画と講演の夕」が開催された。

(三) 昭和七年二月例会、出町スタジオ食堂で開催され末川博の「ソビエトにおける婦人と法律」の講演があった。

(四) 昭和七年三月例会、出町スタジオ食堂で加納竜一の「ソビエト映画」の講演があった。

(五) 昭和七年四月、田中下柳町(川端今出川東入臨川書店の西隣)の二階に友の会の事務所が設置された。一階に事務所とナウカの支店をかねて「ロシア物産ペトルウシュカ」が併置された。二階は会議室で四月末より開始されたロシア語講習は六疊二間で行なわれた(講習会記事は後出)。

一食堂で開催され、本部より送られたスライド「五ヵ年計画の話」を上映し、太田典礼が「ソビエトの医療衛生制度」について講演した。

(六) 昭和七年五月例会、出町スタジオ食堂で開催され、本部より送られたスライド「五ヵ年計画の話」を上映し、太田典礼が「ソビエトの医療衛生制度」について講演した。

(七) 昭和七年六月二十八日夜、日本新聞会館で「新ロシアの夕」が開催された。有料で約四百名来会。開会の辞を能勢克男が述べ、映画「前線」が衣笠貞之助の説明のもとに上映、ついで大竹博吉は「ソビエトより帰りて」と題してソ連からの帰朝報告を行なつた。

彼は京大工学部で建築学を学び下鴨松竹撮影所の設計部長をしていたので大道具掛りの非番の日に係りの人々を動員して友の会のため奉仕した。

友の会の運営の大綱は幹事会で決められ、会務は責任者の太田典礼が総括した。太田の下の第一の活動家は加納竜一であった。事務局の杉山茂(小兒科医)、大島菊女史、哲学者で消費組合運動家、松岡義和および夫人、平瀬

すみ子女史らが献身的に活動した。東

京で刊行されたグラフ「ソビエトの友」は会員獲得に大いに役立つた。グラフの配布など面倒な仕事は安達征一が引受けた。友の会の維持は会費(月五十銭)、会員のカンパ、ロシア語講習料金の一部繰入れでまかなわれた。友の会の結成、運営およびロシア物産の設営については相当多額な資金が必要としたが、資金の大部分は太田典礼と高橋松蔵が負担した。

(八) 昭和八年三月、京大樂友会館において新帰朝者国池公致(帝劇)の「ソビエトの演劇」の話と写真展と題する講演会を開催。

(九) 昭和八年四月、ロシア語講習会を京大YMC会館で開催する計画をしたが応募者なく計画を中止した。同年五月以降は友の会支部の活動はなく機関紙「新ロシア」も休刊となつた。新ロシアは東京で昭和七年六月よりグラフ「ソビエトの友」に代わりのレコード・コンサートが開催され富岡益五郎が解説した。赤衛軍の星章、海へ、ブジヨンヌイ行進曲、赤いケシ、結婚の宴などのレコード。

(十) 昭和七年十一月例会、荒神口学士会館において暉峻義等(倉敷労働教育

語講習は非法活動に追込まれた(後出)。それで友の会事務所は閉鎖され他に移転され、ロシア物産は河原町三條東側に移転することになった(後出)。友の会事務所は最初、国行義道(仏文學者)の家に移されたが、ついで京大北門前の富貴堂に移された。

(十一) 昭和八年三月、京大樂友会館において新帰朝者国池公致(帝劇)の「ソビエトの演劇」の話と写真展の会合を開く。

(十二) 昭和八年四月、ロシア語講習会を京大YMC会館で開催する計画をしたが応募者なく計画を中止した。同年五月以降は友の会支部の活動はなく機関紙「新ロシア」も休刊となつた。新ロシアは東京で昭和七年六月よりグラフ「ソビエトの友」に代わりのレコード・コンサートが開催され富岡益五郎が解説した。赤衛軍の星章、海へ、ブジヨンヌイ行進曲、赤いケシ、結婚の宴などのレコード。

(十三) 昭和八年四月、ロシア語講習会を京大YMC会館で開催する計画をしたが応募者なく計画を中止した。同年五月以降は友の会支部の活動はなく機関紙「新ロシア」も休刊となつた。新ロシアは東京で昭和七年六月よりグラフ「ソビエトの友」に代わりのレコード・コンサートが開催され富岡益五郎が解説した。赤衛軍の星章、海へ、ブジヨンヌイ行進曲、赤いケシ、結婚の宴などのレコード。

(以下次号)

小林亜星が語った母の思い出

「わたししが子どもだつたころ 小林
亜星編」が放映され、亜星は「母が
エスペラントの仲間と会合中特高警
察に踏み込まれるとさつと文書など
をかくして窓から逃げた」と母の思
い出を話していました。その頃聞いて
いた、という「インター・ナシヨナル」
も歌つてくれましたから、当時
「プロ（アロレタリア）・エス」と
呼ばれた反体制エスペラント
運動だったのでしよう。

民族・国境の壁を破つて
「二つの国際語」で世界の人々
の心をつなごうとするエスペ
ラント運動に魅力を感じる反
体制活動家は当時多かつたよ
うです。

刑務所に入るたびに外国语
を一つ学ぶ「一犯一語主義」を称し
た大杉栄はまずエスペラントから始
めました。これに習つてから始
らの学習希望者が結構あつたらしく
1929年東京で開かれた第17回日
本エスペラント大会では、これらの
人にエスペラント書籍の差し入れを
するため献金しようとの提案が「満
場の賛成により」可決されています。
この時代のエスペラント運動には
左翼のプロ・エスと中立主義運動
（左翼はこれをブル・エスと呼んだ）

をかくして窓から逃げた」と母の思い出を話していました。その頃聞いていた、という「インターナショナル」も歌つてくれましたから、当時「プロ（プロレタリア）・エス」と呼ばれた反体制エスペラント運動だったのでしよう。

民族・国境の壁を破つて
「一つの国際語」で世界の人々
の心をつなごうとするエスペ
ラント運動に魅力を感じる反
体制活動家は、當時多かつたよ
うです。

の　にを返思　いの（害）切対

対する事情聴取、呼び出しなどは一切しない」ことを約束させました（実は時々破られたのですが）。各地

のほかの地方会でも警察への対応にいろいろ苦労があつた様子です。

「マレー語（インドネシア語）を
思ひ出そとに図書館から借りて本を

思い出せると図書館から借りた本を返し、次に昔勉強したエスペラントをまた始めた——とのハガキが連盟

に来たのは1978年ごろでした。マレー語は戦争中ボルネオにいた

ので、：エスペラントはその前函館

反体制エスペラント運動と かくされた歴史の暗部

星田 淳

(北海道エスペラント

連盟委員長)

は脱走 現地人ども

た。ところが程なく北ボルネオへの派遣が決まり、7月ごろ第1次隊（図南奉公義勇隊）の1人として下関を出港、シンガポール経由でボルネオへ。

現地では「大和農場」を現地人を使つて経営していたそうですが「空き腹を抱えて」いたとか、順調ではなかつた様子、現地人とのトラブルなどで殺された人もあり敗戦後帰国できたのは半数の15人、あとは戦死、戦病死とされています。（実際は、脱走、現地入との結婚

当局の機密書類に「思想犯は内地に生きて帰さないよう」とあり状況によっては殺してしまうはずだったのですが、敗戦で実行できなかつたようです。

第1次隊30人のうち北海道出身者は5人、全員生還。このうち2人と

当時の国家賠償請求同盟北海道支部の責任者がエスペラントの仲間で、

私との連絡を経て史実の究明が進んだことに不思議な縁を感じていま
す。

にいた頃やつたが治安維持法で投獄された：とのこと、エスペラント大會に来てもらつたり、文通したりで当時の話を聞きました。その人は函館で非法機関紙「戦旗」頒布の件で投獄され、その後当局の監視を受ける「元思想犯」だった浅井喜一郎さんです。当時苦小牧の老人ホーリーで暮らしていました。

思想犯を長田野（福知山）で訓練、ボルネオへ島流し

「湯浅貞夫資料を記録する会」からの中間報告（2）

多数の著作、手書き原稿類も

この間の資料整理から確認された

著作は以下の通りとなっています。

湯浅さんの著作の代表といえば

・『丹波風物誌』（82年11月、文理

閣）

・『天明の地鳴り—丹波一揆物語』

（86年12月、かもがわ出版）

・『目でみる京都の民主運動史』

（91年3月、かもがわ出版）

になるでしょうが、その他にも

・『いばらの道—物語丹地方部落解放運動史』（78年12月）

・『親が子供に語る 丹波の村落史』

（83年3月）があります。

更に資料群の中では見当たりませ

んでしたが、『湯浅貞夫のヨーロッパ駆け歩き』・『歴史の群像』があ

ります（『革新ひとすじに—湯浅貞

夫追悼文集』（編集委員会、01年5

月）。現在のところ、この他に資料

整理のなかから確認できている著

作・論稿（含む新聞）は以下の通り

です。

- ・『風雪の記録 戦前の亀岡人民解放運動座談会』65年1月（出席 沼田重一・谷口久一・人見治郎吉・沢田治三郎・人見房郎）
- ・『中西嘉吉翁を語る』70年9月（和緒じ、73年7月加筆）

- ・『加藤宗一氏の面影』（新しく人）24号（京都都民主主義文学会）65年6月

- ・『泉さんを憶う』（山宣研究）7号、82

年3月)

・「復刊によせて」（『高原』34卷1号、82年7月）

・「レッドページ」（岩井忠熊・藤

ピー）

・『自力更生—南丹病院設立物語』

73年10月（福島勇氏聞き取り）

・『反骨精神を貫く人 松本繁一氏

82年4月（和緒じ）

・『曹源の森—西尾博導師一代記』

82年4月（和緒じ）

・『草の根—藤山孝一

の来歴』82年7月（和

緒じ）

・『農民運動の闘士

堀芳次郎の演説』84年

6月）（和緒じ）

・『万延の一揆』86年

11月

・『上弓削騒動』86年

11月

・『長老山を越えて—

藤田猪兵衛とおこんの直訴物語』87年1月

『京都民報』695号にも「虐殺さ

れた倉岡愛穂先生」の論稿が掲載さ

れています。

・「弔辞」（一点の火—故村上六夫追悼集）91年11月

・「北牧孝三」・「桂長一」（京都都民報社）

手書き原稿として「歴戦の闘士北

牧孝三さんの事跡」（89年12月）が

残っており、桂については「日本共

産党創立50周年—健をきずいた

人々・桂長一」（京都民報）72年

3月26日号）が収録論文のベースだ

と考えられます。

【近藤春二京都の3・15事件】（京都民報）80年3月9日号）、手書き原稿「近藤春二氏と京都の3・15事件」（80年2月）があります。

【丹波風物詩】（京都民報）81年1月11日号（1）～12月13日号（47）

【丹波風物誌】のベースになった論稿です

【京都の4・16事件と泉隆】（京都民報）81年4月12日号）

この他にも、「3・15事件の犠牲者大島英夫同志のこと—本籍を調査して」（80年2月）・「河田賢治さ

人の思い出」（95年12月）・「丹波

埴生の歴史」「歴史の群像」（62年12月）「義民宮内清兵衛について」（80年10月）「部落解放基本法」制定要

求の問題について」（85年7月）の原稿が見つかっています。既発表の

ていません。

資料としても大変貴重なものですが、戦後の青年団活動のなかで記されたガリ版刷りの戯曲台本「萬延の一揆」（埴生青年演劇部、51年1月）が、台本がガリ刷り、手書きで残っていますが、年月日の記載はありません。

れたガリ版刷りの戯曲台本
・「萬延の一揆」（埴生青年演劇部、
51年1月）

・「宝永風雲録」(同、52年1月)が残されており、この他にも、「大島工レジ」「村の問題」「希望の村」の

台本がガリ刷り、手書きで残っていますが、年月日の記載はありません。著名な学者文化人の方々がしたた

められた書の色紙も大切に保管され
ていました。湯浅さんは書への造詣
も深く、『京都民報』紙上で「人と書」
を連載されたことはご存じの方も多
いと思いますが、その際の草稿も残
っています。戦後の農民運動旧友会
の写真、会議資料も貴重な戦後史の
資料です。

紹介 掛谷文庫のこと

四千点が国際平和ミュージアムに

立命大國際平和ミュージアム資料室に、故掛谷宰平の収集による戦前戦後にわたる文献資料が所蔵されている。基本的史料と研究文献は分類・配列され、電動書架に公開されているので、だれでも閲覧できる。そのほか約四千点ちかい資料（現物、複写等さまざま）が未整理のまま取りあえず仮目録に集成されている。戦前の評議会や全協関係の資料は、今日にあっては入手閲覧の困難なものがあり、また治安維持法

い。掛谷自身が戦後に加わった解放運動関係の記録や、社会運動史研究活動にかかる資料もすくなくない。ただ彼の活動地域だった大阪に偏する傾向があるが、社会運動研究の貴重な資料の集成である。未整理のままの仮目録だが、同文献資料室で検索・閲覧が可能だ。広く知られていないが、社会運動史研究のために重要な資料の宝庫として、紹介しておきたい。(岩井忠熊)

湯浅良夫追憶文集「革新ひとすじ」のなかに記された湯浅さんの足跡を想いながら、なるべく早く資料目録をと思いながらの作業をすすめています。併せて著作目録も作成したいと考えています。著作・論稿をご存じであれば事務局までご一報下さい。

湯浅貞夫さんの遺品史料の中には地元の旧家から蒐集されたとみられる古文書類も多い。その中に「大本教出口王仁三郎の戦争観」(1900年)と書かれた文書があった。「世の中に戦争くらい悪しきものなし。軍備ぐらいまらぬものなし」「軍備や戦などみな地主との資本主との為にこそあるべけれ」

こぼれ話

「出口王仁三郎の書」をめぐつて

などと半紙2枚にわたり反戦の文書を書き連ねている。「三十三年節分」とあるだけで、署名は入っていない。

「ひよつとしたら王仁三郎の直筆かも。写真版で見る書体とよく似ている」との声も出て、大本本部に問い合わせたところ、大本教学研鑽所から「王仁三郎の筆跡ではない。王仁三郎が明治三十七

「年旧五月十三日に執筆している内容とほぼ同文であり、明治三十三年に執筆されたとは考えにくい。どなたかが書物から書き写されたのでは」と回答があつた。



**堀江八郎さんが歌う
「あくまで平和合唱団」**
10月12日付「毎日新聞」
混声合唱組曲「悪魔の飽食」

堀江八郎さん（87歳）が写真付きで紹介されていた。自らの満州時代、衛生兵としての毒ガス試験の体験を思い浮かべながら歌つているという。

過去の過ち訴える手段に

平和の願い 歌声に込め

森村誠一さんの作品「悪魔の飽食」がベース

悼

大江洸さん

「変革とロマン」を語り合ってきた
「戦友」



おおえ たけし 1929年京都市生まれ。51年3月同志社大学卒業、4月京都府庁に入職。1954年10月から1970年10月府職労書記長、70年10月～79年10月同副委員長、79年10月から85年10月同委員長。85年10月～89年10月自治労京都府本部委員長、87年9月～89年10月京都総評議長、89年11月自治体労組全国連絡協議会議長（翌年8月名称を自治労連に）、90年8月～93年8月自治労連中央執行委員長、90年7月～94年7月全労連議長。
2008年4月17日永眠、享年78歳。

田北 亮介

（龍谷大学名誉教授）

4月17日夕、大江さんの訃報に接した。夫人の声は穏やかだが、重く沈んだものだった。私はその10日前に病室でお会いした。目を閉じたままの大江さんに、ご家族が大声で「タキタさんですよ」と呼ぶと、両目を見開き、探すように眼を動かした。私も大きめの声で「タキタですよ」というと、強くするどい眼光が緩み、穏やかで笑みさえ感じさせるもの

であった。もう会話もできない容態だった。帰りのあいさつも眼におくった。その日、4月8日が私の大江さんとのお別れのときと覚悟して病室を後にした。

覚悟していたにも拘わらず、訃報に接すると私自身の心がゆらぎ、寂しさと失ったものの大きさに襲われ、胸の内に空洞ができたようであった。この状態は、残念ながらいまだに拭いきれず、続いている。この一文で、切り換えようと思い、筆をとっている。

私が大江さんの知遇をえて今まで、38年のながきに及んだ。1970年の知事選挙からである。とくに「落城」と呼ばれている1978年の知事選挙では、二人とも選挙事務所に常駐し、寝食（酒肴）をともにする「戦友」となった。大江さんの常套語「大きな構え」と「鶴翼の陣」は、私たち二人の身体に染み込んだ。そのもとで一貫しての年月だった。大江さんの東京勤務の間も、折にふれ会い、盃を片手に時を忘れて「変革のロマン」を語り合ってきた。旅先から『秩父事件連作画集』を贈ってくれたり、読了した書籍をすすめてくれたり。すべてが「変革のロマン」を理論と政策で一層深めるよう、「戦友」からの励ましだった、と私は思っている。大江さんが退任し、京都に帰ってからも同様だった。

1999年、喉頭腫瘍の手術を受けた大江さんは、2年後には全快され、定年退職後、「林住期」を宣した私とは、談論風発の機会も増えた。2006年1月、右頬粘膜癌がみつかり手術したが、比較的早く快癒した。少人数が「大江喜寿の会」を、また異なる少人数が「大江励ます会」を、慣れ親しんだ茶屋で開くことで、大江さんの再発に対する不安を癒した、と今では信じたい。2007年1月の再発手術までの1年間、私は病床で、また退院後もよく会い、『燎原』誌の編集と寄稿に余生を賭けるように勧めた。大江さんも決意した。『燎原』誌167号「蜷川民主府政回顧あれこれ—清水寺の巻一」、同誌171・172号「近況あれこれ—鶴見和子・金子兜太対談本に触発されて一」は、「変革のロマン」の決意と生死の不安の二重の意味での遺稿といえよう。

大江さん、安らかにおやすみ下さい。

（『大江洸さんを偲ぶ』偲ぶつどい実行委員会刊より）

忘れ得ぬ人

神谷知治くん

齊藤 治（編集者）

「知治は、これが一番好きやつた。これを持たせてやらんと…」

1967年6月8日、府立桃山高校3年生だった神谷知治くんが17歳の生涯を閉じました。「第15次平和憲法記念京都高校生の集い春季討論集会」をひかえ、実行委員会の中心メンバーとして活動中、夜遅い帰路の交通事故でした。

出棺の時、父親である信之助さん（元参議院議員、当時自治労京都府本部委員長）が、「ちょっと待ってくれ」と家に駆け込みました。持つて出てこられた一冊の冊子が知治くんの胸におかれました。



神谷知治（かみにともはる）
1967年京都市生まれ。故神谷信之助参議院議員の長男。67年の京都高校生春季討論集会で死去。民主青年同盟員。

規約でした。誰もが涙を抑えられない中で、民青同盟地区役員の一人が地にうずくまつて叫び声をあげました。静かな住宅地に響きわたった号泣が耳の奥によみがえります。

＊＊＊
「神谷知治」の名は、民青同盟京

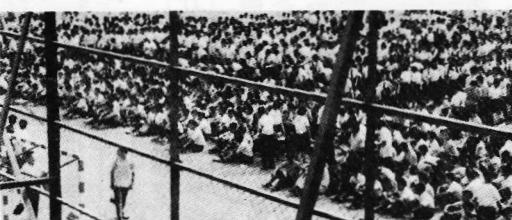
高校3年で逝つた「神信」さんの長男

都府委員会が高校生班を顕彰する「ともはる賞」を設けていたことで一時期、語り継がれていたと思われます。知治くんは桃山高校入学後、部落研に入るとともに民青同盟に加盟しました。二年生で生徒会副会長、そして京都市内八校の公立高校生徒会がつくっていた京生連協（京都府下高等学校生徒会連絡協議会）の議長になりました。京都の高校生が学校をこえて活動する場面をになつていきました。

春季討論集会の準備・運営はその活動のひとつです。

1959年、知治くんが小学校4年時の時、安保闘争への弾圧で神谷信

な動機より仲間づくりの関心が強かつたと思います。「春季討論集会」は、当時4千人、5千人という



第15次平和憲法記念京都高校生春季討論集会

規模になつており、遠方の会場へは学校ごとにバスを連ねて参加していました。66年秋には全京都高校生文化祭典、67年春には立高校交流祭典が開かれ（全国高校生部落問題研究集会は64年から）、生徒の自主活動を厳しく規制していた私

志」として語り合うことに目を細め、そして「知治もいつしょに、君らと飲みたかった」としみじみ話しておられました。

之助氏ら府職労幹部12人が逮捕される事件が起こり、深草のアパートが強制捜索を受けました。二時間か三時間という検索中に、幼い妹をしつかり守りぬいたことに、「おとなしくひ弱な感じがする子でしたけれど、「これならたたかっていいける」と思った」

時間という検索中に、幼い妹をしつかり守りぬいたことに、「おとなしくひ弱な感じがする子でしたけれど、「これならたたかっていいける」と思った」と、信之助氏は追悼文集に書いています。私が知りあつた高校時代の知治くんも、おとなしくてやさしい秀才という印象の一方、政治的芯の強い内面を感じさせる少年でした。

60年代半ばの高校生の活動は、政治的

に桃山の自宅を訪ねました。そのまま泊めてもらうことになり、明け方まで話し続けました。京生連協は、加盟生徒会の役員が漠然と認知しているだけで一般高校生は存在を知らないのが実情でしたが、私はちはきわめて重要な「任務」と信じていました。役員は所属生徒会の推薦で立候補することになつてきましたが、前任者が人選の責任を持つ必要があり、私は迷うことなく知治くんを候補者の一人に選びました。

もちろん活動は公私立の教職員組合が支え、経験の蓄積・継続は主に民青同盟がになつていたと思います。

民主運動史を語る会例会案

日時 12月12日（金）午後2時～
会場 かもがわサロン

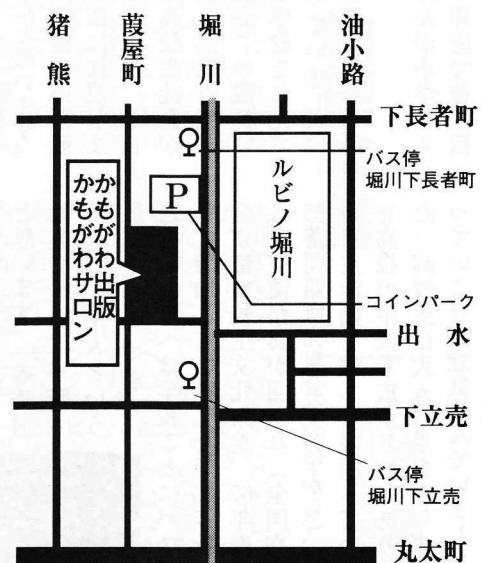
上京区堀川通出水西入
☎075-415-7902

「戦後の青年団運動について」

語る人 西山秀尚さん

元日本共産党府会議員団長

戦後、米占領下での青年団運動を府連青、日青協の幹部であった西山さんからお聞きします。



例会は隔月に開きます。どなたでも参加できます。会員は無料、会員外の方は300円。

情報

スクラップ



□ ■
「韓国併合」100年
市民ネットワーク結成

控えて、日本と朝鮮半島の眞の友好と未来を切り開くため、「反省と和解の市民宣言運動」を展開しようと、10月25日午後、龍谷大深草キャンパスで市民ネットワークの設立総会が開かれた。在日コリアンや韓国からの参加者もふくめ180人が参加、署名のほか、植民地支配に反対し、抵抗した人々の発掘と追悼・顕彰、

□ ■
「韓国併合」100年を2年後に控えて、日本と朝鮮半島の眞の友好と未来を切り開くため、「反省と和解の市民宣言運動」を展開しようと、10月25日午後、龍谷大深草キャンパスで市民ネットワークの設立総会が開かれた。在日コリアンや韓国からの参加者もふくめ180人が参加、署名のほか、植民地支配に反対し、抵抗した人々の発掘と追悼・顕彰、

国・自治体・企業へ「真相究明」「謝罪」などを求めていくなどの方針を決めた。総会には蓮池透さんも参加し講演、日本軍従軍慰安婦のイ・オクソンさんと壇上で手を取り合う場面もあった。（問い合わせ先＝nikkan100.net@hotmail.co.jp）

■ 催し案内 「奇想の編集者 宮武式骨」展 奇抜な言論をもつて明治政府の弾圧と闘ったジャーナリスト（『滑稽新聞』発行者）の軌跡をたどる。12月7日まで、思文閣美術館。一般700円。

□ ■
昭和20年の中学生展 11月21日（金）～12月21日（日）、立命館大学国際平和ミュージアム。400円（小・中学 生無料）

真鍋民主町政2周年のつどい 11月23日（日）午後1時半、大山崎ふるさとセンター（阪急大山崎駅すぐ）、野田淳子の歌と町長との対話など。500円。主催＝大山崎民主町政の会（075-956-7330）

開戦67周年不戦の集い「フィリピン戦の実相を語る」 12月6日（土）午後1時30分～4時30分、京都アスニー。1時30分～4時30分、京都アスニー。

前回の研究やエッセイなどしどしあ寄せください。今号から「悼」欄を設けました。故人の思い出をお書きください。原稿はできるだけメールでお願いします。yuasa@kamogawaco.jpまで。締め切りは前月の15日です。

▼次号は新年号。今年も各団体に新年名刺広告をお願いします。「燎原」の火を消さないためです。会員拡大とともによろしくご協力を。（湯浅俊彦）

告と元兵士の体験。資料費500円。
戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会主催。
訂正 前号「戦後伏見の女性運動を語る」の5頁下段12行目「一〇月二三日」は「二月二三日」の誤りでした。訂正します。